

久留米大学におけるデュアルユース研究に関する基本方針

2025年11月19日 大学評議会承認

久留米大学（以下「本学」という。）は、建学の精神「国手の矜持（ほこり）は常に仁なり」のもと、「真理と正義を探求し、人間愛と人間尊重を希求して、高い理想をもった人間性豊かな実践的人材の育成を目指すとともに、地域文化に光を与え、その輝きを世界に伝え、人類の平和に貢献することを使命とする」ことを基本理念として掲げています。

日本学術会議は、1950年及び1967年の声明を継承し、2017年3月に「軍事的安全保障研究に関する声明」を決定し、その声明に続き報告された「報告 軍事的安全保障研究について」（日本学術会議安全保障と学術に関する検討委員会）（2017年4月13日）では、軍事的手段による国家の安全保障にかかわる分野の研究を「軍事的安全保障研究」とし、「ア）軍事利用を直接に研究目的とする研究、イ）研究資金の出所が軍事関連機関である研究、ウ）研究成果が軍事的に利用される可能性がある研究、等」が含まれるとしています。その上で、大学等は、国内外に開かれた自由な研究・教育環境を維持する責任を負うため、学術の健全な発展という見地から、これらデュアルユース研究と見なされる可能性のある研究の適切性について、目的、方法、応用の妥当性の観点から、技術的・倫理的に審査する制度を設けるべきであるとしています。また、2022年7月25日の見解では、「デュアルユース（軍民両用）の先端科学技術研究について、軍事への潜在的な可能性をもって峻別し、その扱いを一律に判断することは現実的ではない」とした上で、研究の進展に応じて、研究成果の公開と安全保障面の配慮のバランスを慎重に考慮するなど、研究者や大学等の研究機関が研究の進め方を適切に管理することが求められています。

本学は、建学の精神に則った「人間尊重及び人材の育成、そして人類の平和に貢献すること」を基本理念に掲げており、軍事研究とは相容れないことから、軍事的利用を直接に研究目的とする研究は行いません。また、研究者は研究成果が自らの意図に反して軍事目的に転用され、使用される可能性もあることを認識して研究活動を行う必要があります。

以上を踏まえて、デュアルユース研究について以下の基本方針に従って取扱います。

1. 軍事的利用を直接に研究目的とする研究は行わない

2. 国内外の軍事・防衛を所管する公的機関からの資金提供（再委託を含む）を受けて研究を行う場合及び財源の出所を問わず研究成果が軍事的に利用される可能性が高い研究を行おうとするときは、別に定める委員会の審査を経て、大学評議会の承認を得なければならない